



法政大学
HOSEI University

情報メディア教育研究センター
シンポジウム

2017年3月1日

心理学科における 反転授業実践報告

—テキスト教材vs.ビデオ教材—

藤田 哲也

(法政大学 文学部 心理学科)

芳賀 瑛

(法政大学情報メディア教育研究センター)

0.本報告の概要

0-1.法政大学文学部心理学科「心理学測定法I」の 授業目標と構成について

→授業目標を達成する手段としての授業方法

0-2.アクティブ・ラーニングの一形態である 反転授業のデザインについて

→反転授業教材の影響(2015年度と16年度の比較から)

0-3.受講生からの授業外学習に対する評価

→授業方法への有効性の認知・コスト感

1.測定法Iの授業目標と構成

1-1.カリキュラム上の位置づけ

- 2年次配当の専門科目（春学期2単位）
- 実質的に**必修**に近い
 - ⇒ 選択必修；32/40単位の一つ
- 専任教員1名が2クラス担当（秋学期は別教員）
 - ⇒ 1クラス35名前後でリピート
- 内容は**心理学の質問紙調査の実習で、
班活動が中心**

1.測定法Iの授業目標と構成

1-2.授業目標(シラバスからの抜粋)

半期授業終了時に以下のことができるようになるのが目標

- a.質問紙作成のための基礎的な知識を理解し,説明する。
- b.既存の質問紙(心理尺度)を利用して,質問紙研究を計画・実施。
- c.得られたデータに対して,適切な分析および解釈をする。
- d.発表の場で,的確で効果的なプレゼンテーションを行う。

1.測定法Iの授業目標と構成

1-2.授業目標(シラバスからの抜粋)

半期授業終了時に以下のことができるようになるのが目標

- a. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明する。
- b. 既存の質問紙(心理尺度)を利用して、質問紙研究を計画・実施。
- c. 得られたデータに対して、適切に分析を行う。
- d. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行う。

この要素に
反転授業

1.測定法Iの授業目標と構成

1-3.授業計画(概要)

- 1 イントロダクション
- 2-4 質問紙作成の基礎
- 5-7 質問紙調査実施の準備
- 8-9 質問紙の実施
- 10 結果の分析と考察
- 11-12 発表準備
- 13-14 発表
- 15 総括

* この授業全体で
反転授業を
中心とした
アクティブ・
ラーニングを採用

1.測定法Iの授業目標と構成

1-3.授業計画(概要)

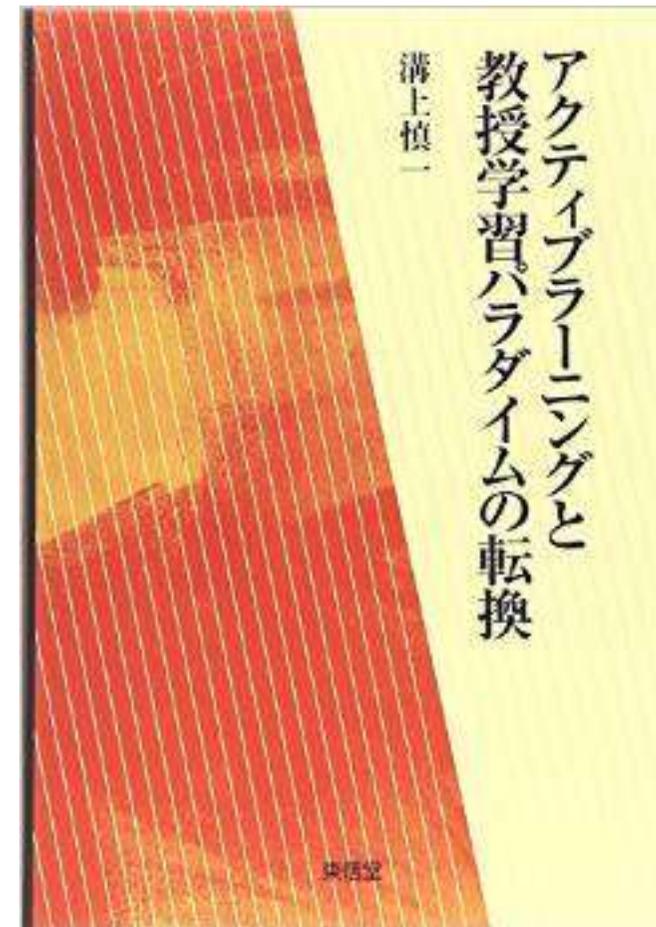
- 1 インTRODクシヨN
- 2-4 質問紙作成の基礎
- 5-7 質問紙調査実施の準備
- 8-9 質問紙の実施
- 10 結果の分析と考察
- 11-12 発表準備
- 13-14 発表
- 15 総括

この教材が異なる
2015年度:テキスト
2016年度:ビデオ

2. アクティブ・ラーニング

2-1. 「アクティブ・ラーニング」とは

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う(溝上, 2014, p.7)。



2. アクティブ・ラーニング

2-2. 測定法Iにおけるアクティブ・ラーニング

- ・Project Based Learning (プロジェクト型学習)

= **自分たちで調査を計画・実施することが**
学生にとっての主たる課題

- ・基本的に班活動による授業

⇒ 全員が**主体的・積極的に参加することが重要**

⇒ 授業内の班活動を充実させるためには、
事前の準備学習が必要不可欠

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

通常授業

教科書等で
予習

授業時間内

授業で
解説

各種の
アクティブ・
ラーニング

反転授業

教科書等で
予習

授業ビデオ
で予習

授業時間内

各種のアクティブ・
ラーニング

ココ重要!

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

予習の段階で理解不十分な箇所の**相互教授**
＝「わかったつもり」からの脱却

協同学習の技法

「シンク=ペア=シェア」「ラウンド・ロビン」

分析方法に制約が生じるかを考える

⇒ 予習課題で作成した回答に基づき、**授業内で**
班活動（話し合い＝班での回答を作成）

⇒ 班での回答を**クラスで共有し、フィードバック**

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

- ・ 予習課題

授業プリントのpdfを事前に配信。

各回2,3個の設問。

⇒ 回答 (Wordに設定した回答欄に記入) 作成後,
授業支援システム経由で**授業前に提出 + 印刷**

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

・予習のスケジュール:

a. 授業終了後から次回分の教材配信

b. 各自予習課題に取り組み, 次の授業の**2日前**
の23:59までに授業支援システムに提出

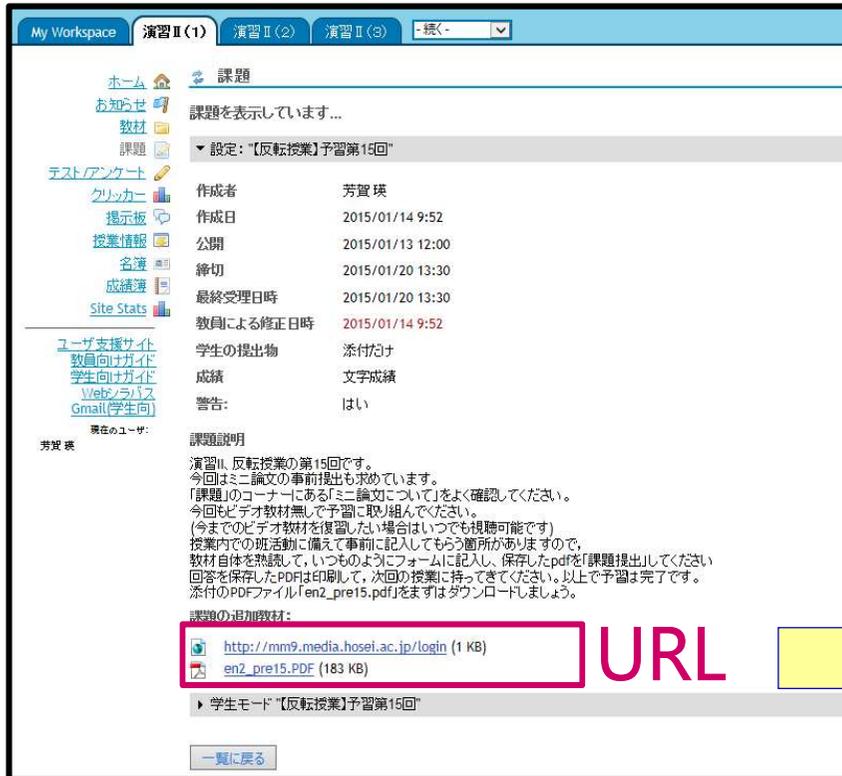
→ギリギリになってから予習課題に取り組むと,
回答作成を超えた授業準備が不可能なため

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

- ・ビデオ教材(2016年度のみ):
 - a. 第2回～第4回の授業で使用
 - b. 一つの教材は長くて15分程度
 - c. 1回の授業で2～3個のビデオ教材
= 予習課題の設問箇所に関連した内容

視聴の流れ



My Workspace 演習II(1) 演習II(2) 演習II(3) - 続く -

ホーム 課題

お知らせ 課題を表示しています...

教材

課題

設定: 「【反転授業】予習第15回」

作成者	芳賀 瑛
作成日	2015/01/14 9:52
公開	2015/01/13 12:00
締切	2015/01/20 13:30
最終受理日時	2015/01/20 13:30
教員による修正日時	2015/01/14 9:52
学生の提出物	添付だけ
成績	文字成績
警告	はい

課題説明

演習II、反転授業の第15回です。
 今回はミニ論文の事前提出も求めています。
 「課題」のコーナーにある「ミニ論文について」をよく確認してください。
 今回もビデオ教材無しで予習に取り組んでください。
 (今までのビデオ教材を復習したい場合はいつでも視聴可能です)
 授業内での班活動に備えて事前に記入してもらう箇所がありますので、
 教材自体を熟読して、いつものようにフォームに記入し、保存したpdfを「課題提出してください」
 回答を保存したPDFは印刷して、次回の授業に持ってきてください。以上で予習は完了です。
 添付のPDFファイル「en2_pre15.pdf」をまずはダウンロードしましょう。

課題の追加教材:

- <http://mm9.media.hosei.ac.jp/login> (1 KB)
- en2_pre15.PDF (183 KB)

▶ 学生モード 「【反転授業】予習第15回」

一覧に戻る



法政大学 HOSEI University ビデオ

ホーム

関連ビデオ

動画管理

プロフィール

ユーザ管理

クラス管理

システム設定

1. 妥当性と信頼性

心理学測定法 第1回「妥当性とは」

Administrator Bss

公開日時 2016/07/06 15:00

コメント数

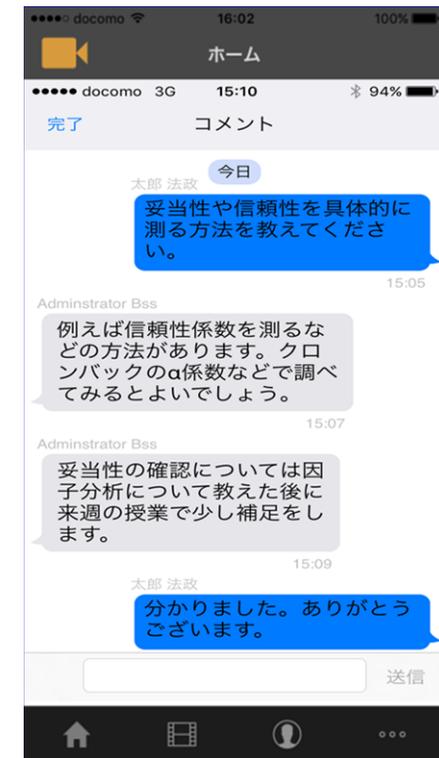
取消 投稿

法政大学
 授業支援システム

全学動画配信システム
 OATube



OATube



- ・アカデミック版Youtubeを志向して設計
- ・LDAP連携により統合認証が可能
- ・撮影動画を即時アップロード・配信可能:マルチデバイス対応
- ・クラス管理, 視聴履歴取得, 相互コメント機能

2. アクティブ・ラーニング

2-3. 反転授業

- ・2015年度全回 & 2016年度第5回～第15回:

- ビデオ教材なしで, 事前に予習課題に取り組む
 - 授業内での班活動に備える

- =基本的に最終回までこのスタイルを維持

- ・成績評価上の扱い:

- 予習課題の事前提出 = 平常点40%に含まれる

- ...平常点は1回4点

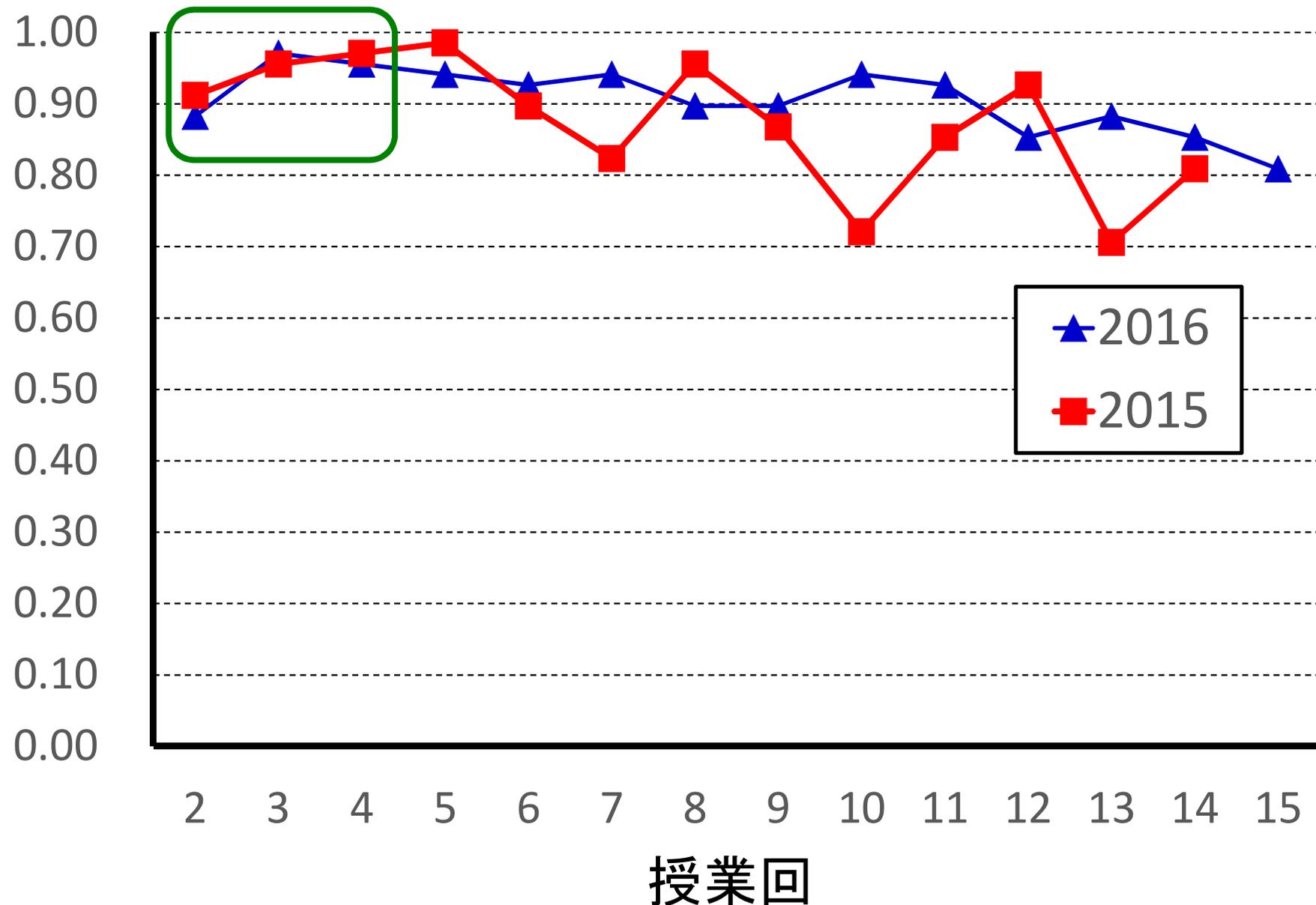
- =予習課題事前提出 + 出席 + 感想用紙提出

3. 受講生の受け止め方

3-1. 予習課題への取り組み

- ・全回を通して、高い事前提出率
 - ⇒ 第2回～第4回の基礎事項説明部分では約90%
 - ⇔ 2015年度では第5回目以降は70%程度になることも
- ・基本的に、出席者はほぼ予習をしてきていた

予習課題提出率 (nは各年度68)



3. 受講生の受け止め方

3-2. 授業外学習に関するアンケート実施

- ・第2回と最終回で、**授業外学習**アンケート実施

⇒**2回とも回答した64名(2015), 59名(2016)**が以降の
分析対象

- ・「教科書の予習」「それまでの復習」「課題
(宿題)に取り組む」「班活動」「ビデオ教材視聴」

⇒実施するつもりの(実施した)程度,
効果的だと思う(**有効性の認知**),
行うのは面倒(**コスト感**)について, 6段階評定
(6:非常によく当てはまる~1:まったく当てはまらない)

3. 受講生の受け止め方

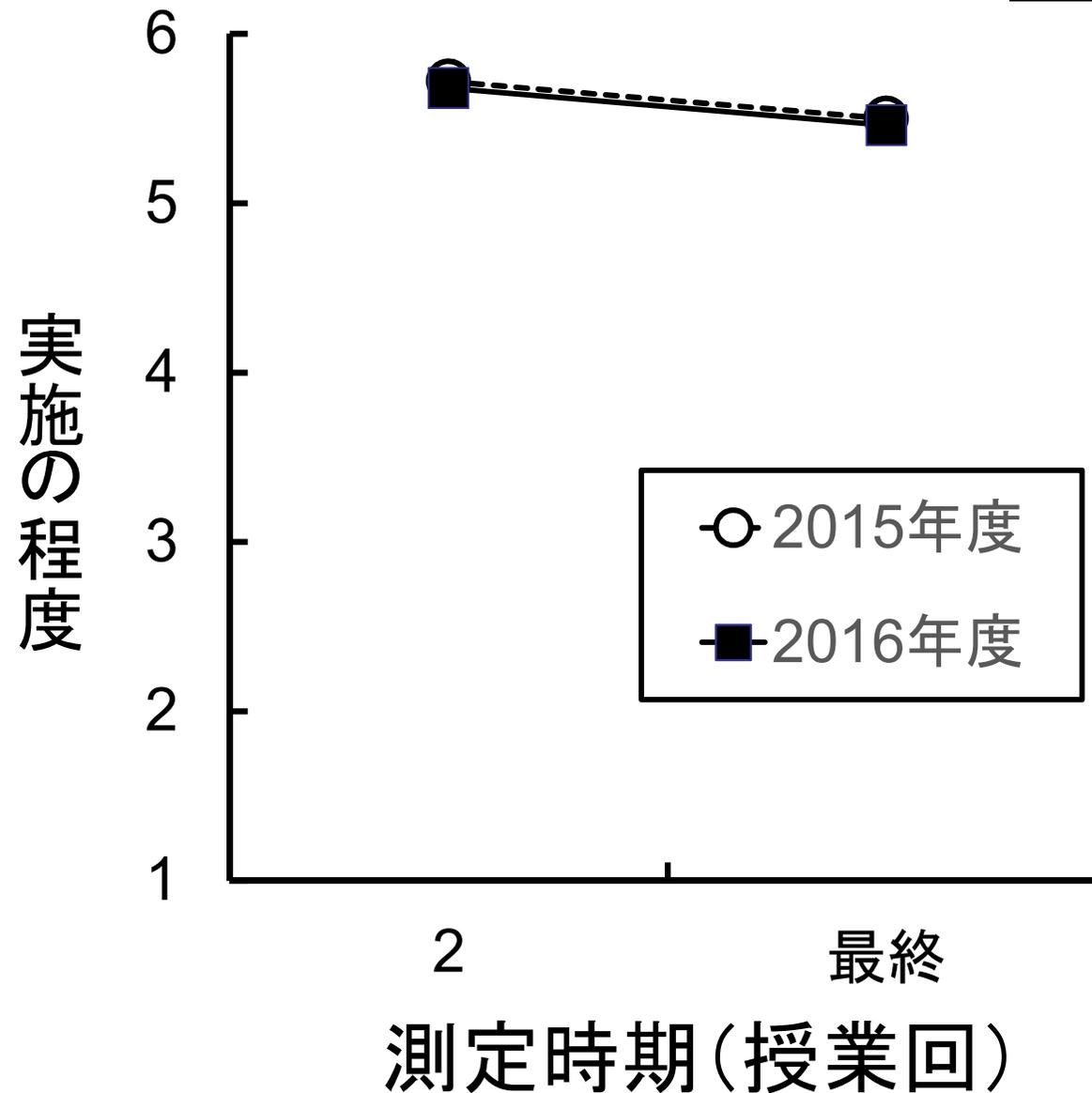
3-2. 授業外学習に関するアンケート実施

- ・本報告では以下の3項目について報告

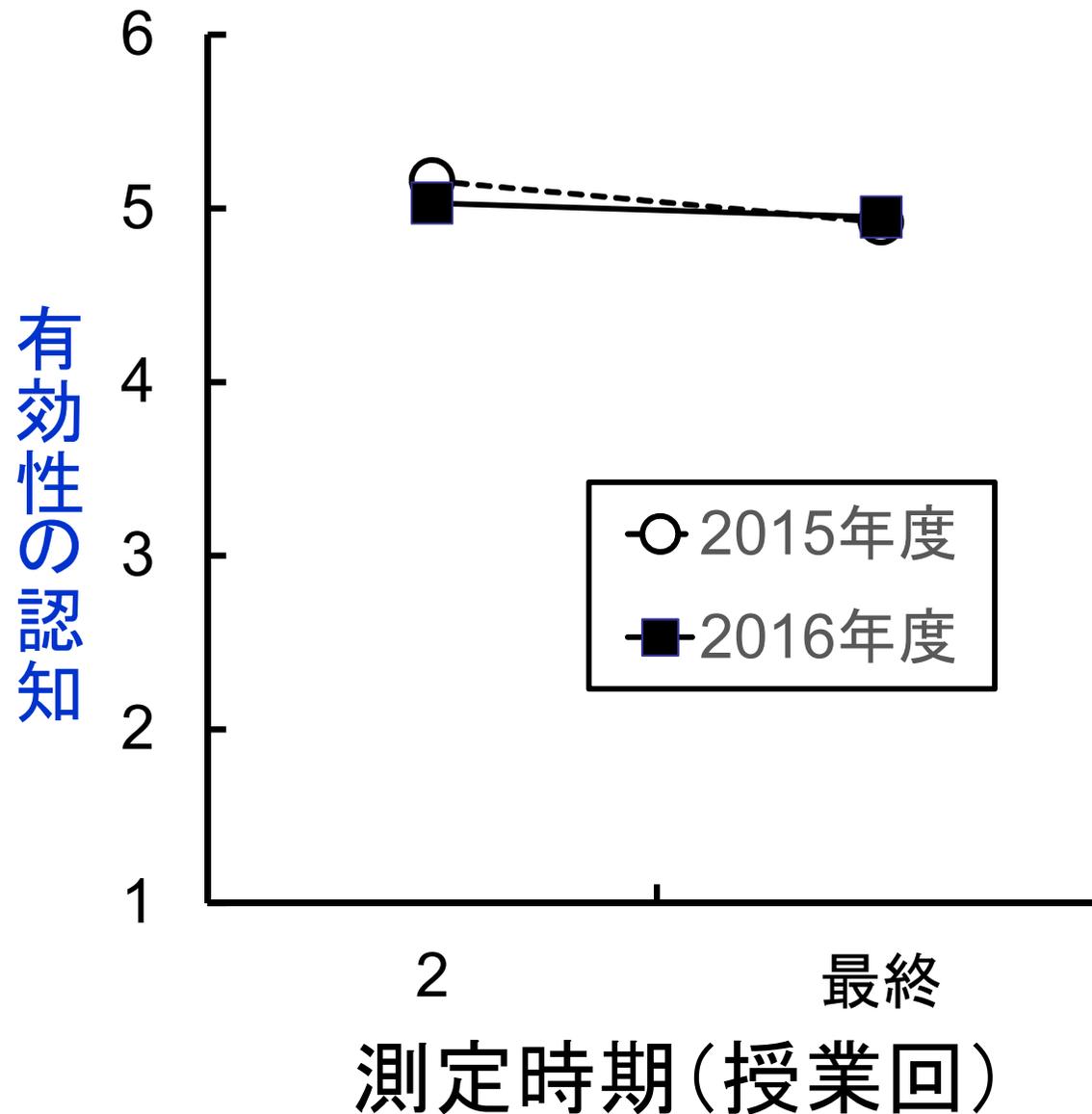
「次の回の授業に備えて、指示された課題（宿題等）に取り組む」ということを、

- a. 測定法Iで実施すると思う（実施した）
- b. 行うのは効果的であると思う（有効性の認知）
- c. 行うのは面倒であると思う（コスト感）

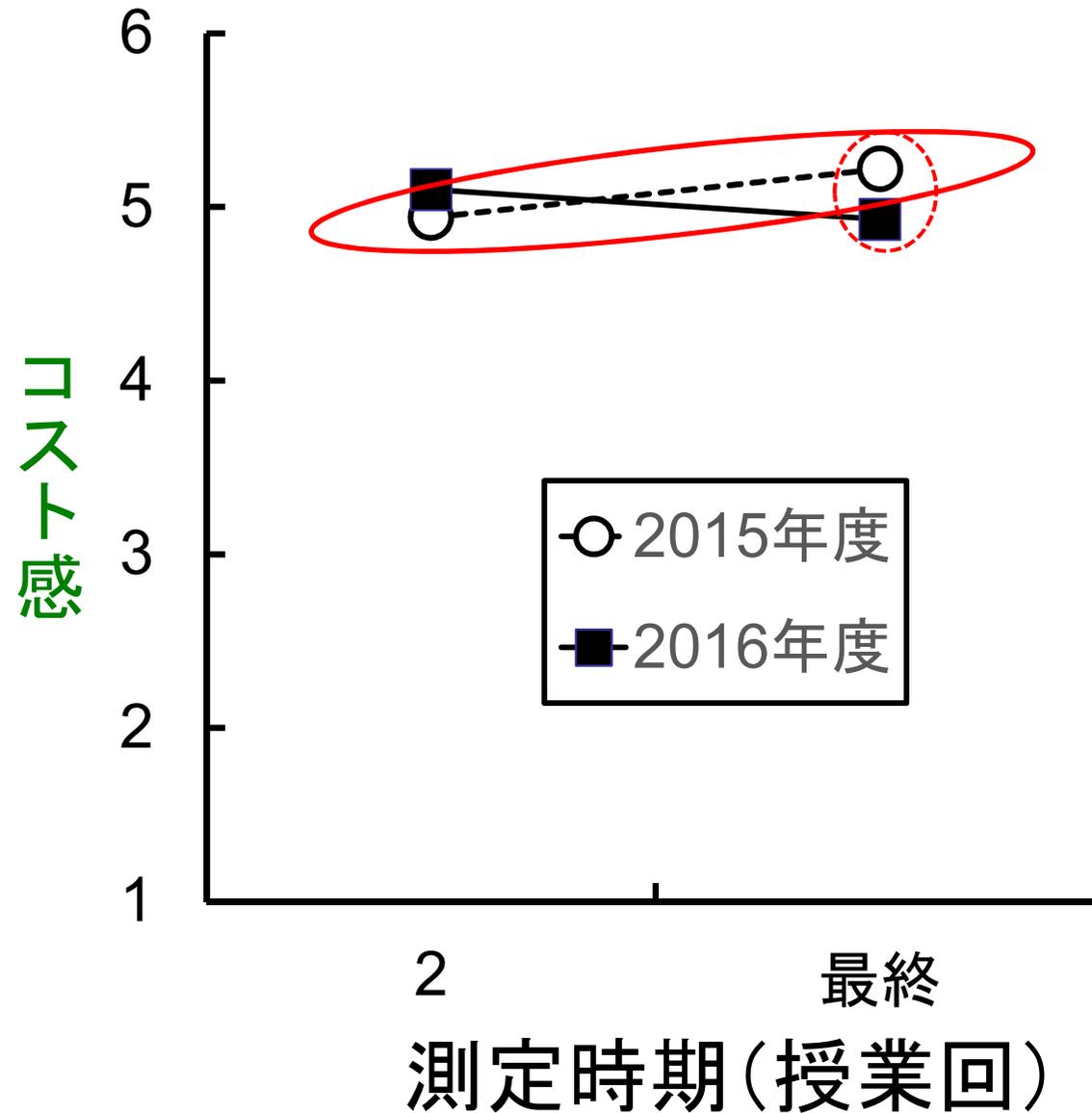
- **課題に取り組むことを**，測定法Iで実施



- 課題に取り組むことは、効果的だ(有効性の認知)



- 課題に取り組むことは、面倒だ(コスト感)



3. 受講生の受け止め方

3-2. 授業外学習に関するアンケート実施

- a. 測定法Iで行うと思う(行った)
- b. 行うのは効果的であると思う(有効性の認知)
- c. 行うのは面倒であると思う(コスト感)

⇒いずれも比較的高い評定+

全体としては授業が進むにつれ下がる傾向

⇔2015年度のコスト感のみ, 最終回で上昇

=ビデオ教材の経験が, コスト感を抑制?

4.まとめと今後の課題

4-1.授業運営上の反省点(前年度から継続)

a.特定の、欠席しがち&予習課題未提出の
学生への対処

=予習課題を提出し損なったら、平常点が
もらえないからと、欠席するという発想？

b.測定時期の見直し

=ビデオ教材視聴が終わる第4回授業で測定

4.まとめと今後の課題

4-2.授業の教育効果の検証

a. 予習課題の内容分析

= 予習の段階での課題のため、現状では
内容に関しては評価の対象外

⇒ ただし、真面目に取り組むか否かと、
課題への認知は関係がありそう

b. 授業内での活動性をどのように評価するか

= 成果か、過程か

⇒ ディープ・アクティブ・ラーニングのとらえ方